

はじめに

公立千歳科学技術大学 学長 川瀬 正明

本学は平成 10(1998) 年に千歳市を母体とする公設民営大学として、最先端の光科学技術
を特徴とした光科学部・2 学科体制で開学しました。その後の社会環境の変化や科学技術の
進展とともに対象とするフィールドを徐々に広げ、平成 20 年には 3 学科構成とし、平成 27
年に現在の理工学部 応用化学生物学科、電子光工学科、情報システム工学科の体制となっ
ています。

このように開学以来、大学のあるべき姿について不断の議論を重ね、改組改革を行って参
りましたが、将来を見据えた大学改革を推進し、地域社会における知的拠点としての役割を
担う大学として教育と研究を発展させ、地域に貢献していくために、平成 28 (2016) 年末
に公立大学法人化の検討に関する要望書を千歳市へ提出するに至っています。その後、有識
者会議における検討を経て、平成 29 (2017) 年 10 月には千歳市長から公立大学法人設立を
是とする表明がなされ、さらに千歳市議会特別調査委員会による調査検討と評価委員会の
設置を経て、平成 31 (2019) 年 4 月に法人設立と公立千歳科学技術大学の開学に至りまし
た。従いまして、この平成 30 (2018) 年度年報は学校法人として最後の活動状況報告とな
ります。今回からアクティビティの記録に主眼を置き、前年度まで記載していた各教員の研
究活動報告は今後「紀要」の発行を行うこととして、本年報には記載しておりませんので、
ご理解をお願いします。

今年度は、教育改革として「大学教育再生加速プログラム 高大接続改革推進事業 V.卒
業時の質保証」の活動が 3 年目となり、WG をベースとした活動を行い、特に本学のどの
分野で学んでも、数理情報系に強い、これからの社会で必要とされ、活躍が期待できる人材
の育成に向けたカリキュラムの再構築等、具体的な取組を進めました。

地域貢献活動は従来から教員による公開講座、学生プロジェクトチームの理科工房による
理科実験授業等のほか、道内最大規模で実施している高等学校との連携等、精力的に推進
してきましたが、さらに本学の知恵と人材を活用して地域の発展に寄与する「スマートネイ
チャーシティちとせ構想」を提案し、その推進と「知の拠点」、「人材の拠点」、「地域・社会
貢献の拠点」となることを目指した活動を開始しています。

このほか、文部科学省ナノテクノロジープラットフォームの実施機関として「分子・物質
合成プラットフォーム」を構築し、企業等への技術支援を行っています。また、本学を核に
産学官共同研究システムの構築を目指す特定非営利活動法人ホトニクスワールドコンソー
シアム(略称:PWC)と連携をとって各種研究プロジェクトを推進しています。

大学を取り巻く環境は大きく変化していますが、本学では公立大学法人化という大きな
改革に舵を切ったところであり、今後も教職員一丸となって教育、研究、地域貢献に邁進し
てまいりますので、忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いです。